

飯豊山(2105m):飯豊連峰は東北アルプス

斉藤 整紀

●2018年9月15日(土)~18日(火)

●メンバー 村山隆(CL)、斉藤整紀

●コースタイム

【始めに】

99座目の飯豊山は難儀である。まず飯豊連峰南部を馬蹄形に3泊4日で廻る日程を立て、最初、花の季節の7月28日始まりプランは台風12号、2度目9月8日始まりは台風21号の悪天候で取りやめ、3度目は、9月15日から、ようやく臨むに至った。

次に、山での宿泊が避難小屋のため、寝袋、マット必携で、食事ができる唯一の切合小屋にしても一泊米3合持参のため、ザックの軽量化が難しい。

更に、不運にも右足を痛めているため、テーピング、サポーター、ストック等の補助・補強が必要である。

元々、難易度が高い飯豊山行ではあるが、このように複雑な悪状況下での出発となった。

9月15日(土) 雨のち曇り

葛西(車)11:00⇒東北道・磐越道(西会津IC)・県383⇒15:30 弥平四郎・大阪屋(泊)

今回も予報は芳しいものではなく、一部、雨覚悟の出発となった。案の定、15日は、東京は朝から雨であった。しかし友人の車が、栃木県下に入った頃から空が明るくなって、福島県ではなお改善し、磐梯山も望めるようになった。小さな弥平四郎集落のこと、宿の大阪屋はすぐ分かった。古い酒店の商家を利用した民宿はシックで、夫婦二人が質素に切り盛りしている。

9月16日(日) 曇り時々晴

大阪屋(車)5:30⇒弥平四郎登山口 P 6:10⇒松平峠 8:40⇒疣岩山 10:00⇒三国岳 11:30⇒14:00 切合小屋(泊)

今日の歩程が、この山旅で一番厳しいが、予報は悪い。

やはり、弥平四郎登山口駐車場で身支度を整える最中、パラッときたため、雨具の上着を羽織っての出発となった。

上り始め、疣岩山までは、上ノ越経由の尾根ルートからの予定であったが、宿屋の主人のアドバイスは、松平峠経由の沢ルートからの方が無難では、とのことであり、上りは沢ルートを探った。

沢筋は、前半、高低差は少ないが、時々、岩稜や悪路も交る。幸い、心配された雨の可能性は少なくなり、時折、日差しも望まれる。トラバース気味に、徐々に高度を上げ、松平峠で前景が開け、雄大な山並みに幾筋かの滝が掛かる。絶景である!



ここから頭上に聳える疣岩山までの急登は中々のものである。花崗岩や砂地の斜面を黙々と上る。久しぶりの荷物にも心配された右足は頑張っている。

疣岩山に到着後は、尾根筋に乗り、三国岳、種蒔山などのいくつかのピークや岩稜を超えて進む。足を労わりながらの歩みであるが、時間的には予定通りで、午後2時に切合小屋に着いた。

米持参、一泊二食で6,500円、水は庭内に豊富でトイレも水洗で綺麗である。寝るスペースも余裕あり。

9月17日(月) 曇りのち晴れのち曇り

切合小屋 6:05⇒本山小屋→飯豊山神社→飯豊本山 8:30~50⇒尾西小屋 10:30⇒飯豊本山→本山小屋→15:00 切合小屋(泊)

夜中に激しい降雨があり、明け方にはほぼ上がった。しかし雨天予報であり、大日岳まで行くのは諦め、小

屋で朝食を摂って、6時過ぎに出発。風もあるため、雨後の山径を雨具上下着用で進む。草履塚、姥権現を経て、本山小屋、飯豊山神社と進み、更に20分奥にある飯豊本山のピークを目指す。ガスが風に運ばれ、展望はない。山頂には多くの登山者が集まり、記念写真を撮っている。風はあるが皆満足感を湛えている。



ご自分が生まれた日に飯豊に上った父さんが今般亡くなり、飯豊山頂に分骨に来たと言って、お神酒を捧げる女性に話しかけ、「大悲呪」を唱えて差し上げた。

皆は、ここから戻るが、我々は、駒形山からお花畑の方へ下りた。すると奇跡が起こった！次第にガスが晴れ、烏帽子岳方面、そして大日岳方面も姿を現した。



何とも大らかで、素晴らしい眺めである。ここまで歩いてきた峰々と、前方に広がる連峰を眺めて、「東北アルプス」を実感する。ここからの烏帽子岳は谷まで前面を一気に落とし、風格があり、立派である。



更に、尾西小屋まで行くと、大日岳が眼前に控え、迫力がある。北岳を思わせるピラミダルな山容は、百名山こそ飯豊に譲るも最高峰の風格十分である。



尾西小屋は水もトイレの紙も無い小屋ながら、連峰縦走の要である。北股岳さらには杵差岳へと続く遠大な縦走路は途方もない。いつまでも見飽きない風景ながら、ガスが出て、寒くなってきたため、踵を返し、元来た径に戻る。ところで、この山域は、岩のマークや標識が極端に少ない。おまけに判読不能の道標もあり、飯豊本山山頂付近では、道迷いの危険もあった。

9月18日(火) 晴れのち雨(東京の夜)

切合小屋 6:20→三国小屋 8:00→疣岩山 9:15→上ノ越
→12:20 弥平四郎登山口P (車)⇒ロータスイン(入浴・昼食) 15:30⇒19:50 葛西

夜中の雨は早い時間に上り、今日は、予報通り晴れである。5時過ぎに朝日の写真を楽しむ。喜多方方面か、朝日が町を照らす。ゆっくり朝食を摂り、三国岳、更には疣岩山へと下山の途中、何度も、飯豊本山と大日岳を振り返り、山容の素晴らしさ、大きさを痛感した。日差しが暑いくらいである。疣岩山からは、今度は、上りと逆の尾根の上ノ越ルートを下りた。やはり岩稜を散らした径で、急坂も多い。木の根が邪魔する箇所も多い。しかし、見事なブナや紅葉に癒され、順調に下山する。ほぼ予定通りの正午過ぎに、登山口駐車場に着いた。何とも百名山2座分の体力、精神力を消耗した感じはあるが、充実感もまた計り知れない。予報以上の好天に恵まれ、素晴らしい山行であった。

下山後は、ロータスインで、入浴、昼食後帰宅した。今回は特に、長い日程の中、何度もセットし直してくれた村山さんのご尽力に感謝したい。(了)